

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 130人

② 算数 130人

③ 理科 130人

#### 5 留意事項

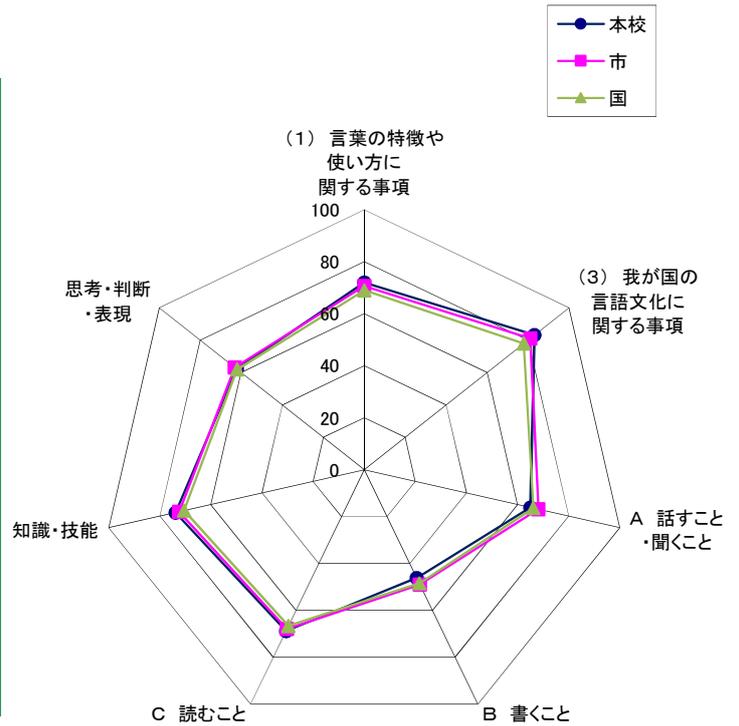
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立横川東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	72.0	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	83.1	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	65.0	68.2	66.2
	B 書くこと	46.2	48.9	48.5
	C 読むこと	68.8	67.9	66.6
観点	知識・技能	73.8	72.5	70.5
	思考・判断・表現	62.2	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

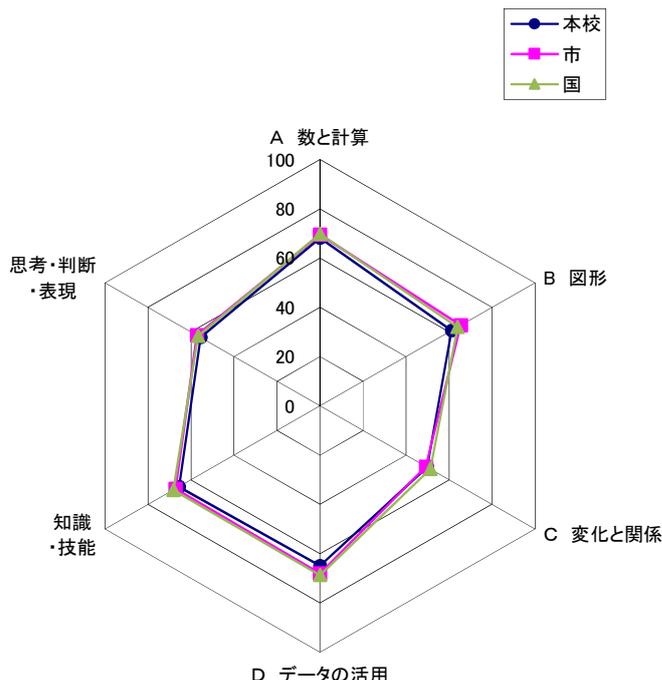
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、国の平均正答率をやや上回っている。 ○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う」設問については、国の平均正答率を6ポイントから11ポイント上回る結果となった。 ●「話し言葉と書き言葉との違いを理解する」設問では、国の平均正答率を7ポイント下回った。	・漢字の読み書きの学習については、今後も繰り返し行うことで定着を図っていく。 ・同音異義語の漢字の学習に取り組んだり、熟語を使って短文を作らせたりする学習を取り入れることで、漢字を文章の中で正しく使えるよう指導していく。 ・意見の発表や作文指導を日常から指導し、場に応じた言葉遣いについて意識化を図る。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。 ○「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」の設問が国の平均正答率を上回ったことは、書写の授業などを通して、字形や行の中心を意識して学習している成果が表れているように思われる。	・今後も、点画のつながり、文字の大きさや配列などについて日常的に指導し漢字や仮名が正確に、丁寧に書けるよう指導していく。 ・書写の時間には、筆遣いを学ぶことで、文字のつながりを意識して字が書けるようになるように学習に取り組ませる。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、国の平均正答率とほぼ同じである。 ○「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」の設問では、84.6%と正答率が高かった。 ●「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」設問では、45.4%と正答率が低かった。	・今後も話し合う活動を授業の中に意図的に設け、やり取りをする時間を確保していく。また、適宜、伝え方や聞き方の指導もしていく。 ・自分の意見をもたせ、伝えたいことが明確に相手に伝わるように、言葉の選び方や文の構成の仕方を考えさせる場面を設定し、分かりやすく伝える力を育てるようにする。 ・話し合う場では、自分の意見と比較して話を聞くことが意識できるよう声掛けをしていく。
B 書くこと	平均正答率は、国の平均正答率とほぼ同じである。 ●「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」の設問については、国の平均正答率とほぼ同じだが、37.7%と低い正答率になっている。条件を設定して文章を書くことが苦手であることが読み取れる。	・文章を書く学習の際には、推敲したりお互いに読み合っで感想を伝え合ったりすることで自分の文章の改善点に気付いたり友達の文章の良さに気付いたりできるようにする。 ・作文指導の中で、字数や段落数など条件を設定して文章を書く活動を取り入れることで要点をまとめて文章が書けるよう指導していく。
C 読むこと	平均正答率は、国の平均正答率とほぼ同じである。 ○「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」の設問については、国の正答率より8ポイントほど上回っている。 ●「登場人物の相互の関係について、描写を基に捉える」設問では、国の正答率より6ポイント下回っている。	・場面の様子や心情を叙述から読み取る学習では、読み取りのポイントを示すことで、より深い理解が行えるようにする。 ・物語文では、その場その場の状況をイメージさせることで、登場人物の様子や関係を意識して読み取りができるよう指導していく。 ・「それ」や「これ」などが何を指しているのかを確認させたり、接続語に着目させることで、文と文のつながりを意識して読み取ることができるようにする。

# 宇都宮市立横川東小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.2	69.5	69.8
	B 図形	61.2	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	49.8	49.3	51.3
	D データの活用	64.9	68.0	68.7
観点	知識・技能	65.6	67.3	68.2
	思考・判断・表現	55.5	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

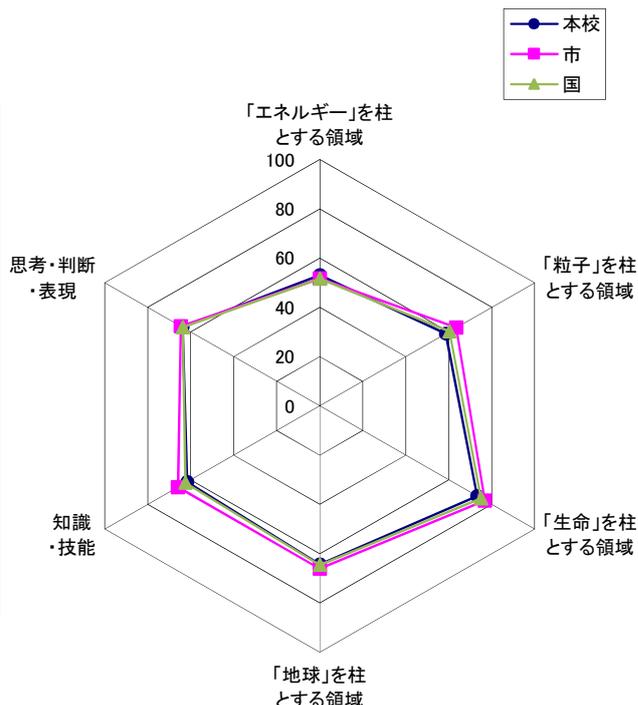
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、どの領域も全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○「二つの数の最小公倍数を求めることができる」の設問では、本校の平均正答率は全国の平均を上回っている。</p> <p>●「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」設問では、本校の平均正答率は74.6%と全国平均を下回った。</p>	<p>・朝の学習や授業中、家庭学習におけるプリント、ドリル学習などで計算の反復練習を継続して実施し、計算力のさらなる向上に向けた取組を行っていく。</p> <p>・根拠を明らかにしたり手順を順序よく説明したりすることで、技能や思考力をさらに高めていく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、5領域の中で最も低い。</p> <p>○「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる」の設問では、全国平均正答率をやや上回っている。</p> <p>●「示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる」設問の平均正答率は49.2%と低い。</p>	<p>・既習事項の確実な定着を図るために、体積の単元で面積の公式を復習するなど、新しく学ぶことと既習事項を結び付けることで理解を深めていく。</p> <p>・つまづきを解消するために、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、どの領域も全国平均よりやや高い。</p> <p>○「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる」の設問では、全国平均正答率をやや上回っている。</p> <p>●「百分率で表された割合を分数で表すことができる」設問では、全国平均正答率をやや下回っている。</p>	<p>・デジタル教科書や実物投影機などを利用し、測定の方法や表現の仕方を視覚的に捉えさせるとともに量を数理的に処理する手順について丁寧に指導し習熟を図る。</p> <p>・高い正答率を示した力をさらに向上できるよう、発展問題にも数多く取り組ませるようにする。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国平均正答率よりやや下回っている。</p> <p>○「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる」の設問では、全国平均正答率をやや上回っている。</p> <p>●「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる」設問では、全国平均正答率をやや下回っている。</p>	<p>・自分なりに考える習慣が身に付くように、見通しをもち筋道を立てて考えることや既習事項を基に試行錯誤することなどの方法を示し、繰り返し取り組ませるようにする。</p> <p>・表やグラフ意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、データの特徴を捉えて考察できる力を付けさせるために、様々な正式のデータの活用問題に取り組ませるようにしていく。</p>

# 宇都宮市立横川東小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	53.1	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	58.6	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	73.2	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	64.3	66.1	64.6
観点	知識・技能	61.7	65.9	62.5
	思考・判断・表現	63.8	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、国の平均正答率を上回っている。</p> <p>○「日光は直進することを理解している」の設問については、本校の平均正答率は9.1ポイント全国の平均を上回っている。</p> <p>●「実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ」設問では、本校の平均正答率は全国の平均を下回っている。</p>	<p>・今後も十分な観察や実験が実感を伴ってできるように、学習環境の整備や実践用具・器具の充実を図る。</p> <p>・実験の目的を明確化した上で、予想・結果・考察・まとめという一連の思考過程を大切に扱っていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、国の平均正答率を下回っている。</p> <p>○「一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く」の設問については、本校の平均正答率は全国の平均を上回っている。</p> <p>●「水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ」設問については、本校の平均正答率は全国の平均を6.2ポイント下回っている。</p>	<p>・今後も、学習環境の整備や実践用具・器具の充実を図る。</p> <p>・実験用具・器具の名称や正しい使用方法については、児童一人一人が実際に使用する機会を与え、実践を伴う理解を促していく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、国の平均正答率を下回っている。</p> <p>○「見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ」の設問については、本校の平均正答率は全国の平均を上回っている。</p> <p>●「資料を基に、カブトムシは育ち方と主な食べ物の特徴から二次元の表のどこに当てはまるのかを選ぶ」設問については、本校の平均正答率は全国の平均を9.2ポイント下回っている。</p>	<p>・今後も、問題を解決するための視点を明確に示し、その視点を基に観察したり自分の考えを表現したりするよう、日常的に指導していく。</p> <p>・提示された情報を複数の視点で分析し、自分の考えを表現する学習をしていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、国の平均正答率を下回っている。</p> <p>○「夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ」の設問については、本校の平均正答率は全国の平均を5.5ポイント上回っている。</p> <p>●「鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く」設問については、本校の平均正答率は全国の平均を8.2ポイント下回っている。</p>	<p>・観察の目的の明確化と予想・結果・考察・まとめという一連の思考過程を大切に扱うことで、さらに表現力の育成を図る。</p> <p>・学習した内容をできるだけ日常生活と関連付け、自己の経験を想起させながら考えることができるよう引き続き指導していく。</p>

## 宇都宮市立横川東小学校 第6学年 児童質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○生活面では、「朝食を毎日食べている。」と肯定的な回答をした児童の割合が94.2%、「毎日同じくらいの時刻に寝ている。」と回答した割合が80.8%、という結果で全国の肯定的割合とほぼ同じで、「毎日同じくらいの時刻に起きています。」と回答した割合が86.1%でやや下回っているものの、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多いことが伺える。

○学校生活に関しては、「学校に行くのが楽しい」という質問に対し、82.3%の児童が肯定的な回答で全国よりやや下回っているが、「友達と協力するのは楽しい」と回答した児童は93.4%、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童は90.3%で全国よりやや上回り、友達や先生との信頼関係が構築されつつあると考えられる。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。」と回答した児童が96.4%、「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童93.4%と、思いやりの心をもって友達に接したり、学校のために働いたりしようとする児童が多いことも分かる。今後も道德の授業を中心に、よりよく生きていくための道徳性について指導していきたい。

○家庭学習では、「家で自分で計画を立てて勉強している」と肯定的な回答をした児童は68.9%で全国よりやや下回っているが、「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間勉強しているか」という質問で1時間以上勉強していると回答した児童が64%で4.6ポイント上回り、「学校が休みの日、1日当たりどれくらいの時間勉強しているか」という質問で70.5%と14.4ポイントと大きく上回っており、家庭での学習習慣が身に付いている児童が多いと考えられる。

○ICT機器の活用については、「授業中、調べる場面で使用する」という児童は86.7%で10.6ポイント大きく上回り、「学級の友達と意見を交換する場面で使用する」は60.2%で10.8ポイント上回り、「自分の考えをまとめ、発表する場面で使用する」は51.5%で6.3ポイント上回った。学習の中で効果的な活用を取り入れている成果であると考えられる。また、「ICT機器を使うのは勉強に役に立つと思う」と96.3%の児童が肯定的な回答をし、関心が高いことが分かる。

○授業への取組については、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と肯定的な回答をした児童は83.1%で、全国より3ポイント上回る結果となった。授業の中でペアやグループ活動を工夫して取り入れることで、自分と友達の意見を比較しながら考えたり、友達の意見を踏まえて自分の考えを深めることができることの楽しさや達成感を感じている児童が多いと考えられる。今後も、話し合い活動の目的を明確に示したり、つなぎ言葉や考え言葉を用いたりして、話し合いの質の向上を図っていきたい。

○携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、「家の人と約束したことを守っている」と肯定的な回答をした児童は70.6%と全国の肯定的割合とほぼ同じである。「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをするか」という質問に対して1時間以上していると回答した児童は67.7%、「携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをするか」は55.9%で、どちらも全国より8ポイント以上下回っている。スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言やトラブル防止出前授業での学習など引き続き指導と家庭との連携を図ってきたい。

## 宇都宮市立横川東小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の確実な定着	・「朝一学習」(月・水・金・読書、火・国語、木・算数)の実施。 ・学期ごとの漢字計算オリンピックの実施。 ・パワーアップシート等の教材の効果的な活用。	国語、算数、理科の知識・技能分野の平均正答率は、それぞれ73.8%、65.6%、61.7%で全国と比べて国語は3.3ポイント高く、算数、理科はそれぞれ2.6ポイント、0.8ポイント低かった。
・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善	・主体的対話的で深い学びの達成のための「めあてや見通し、見方・考え方、振り返り」などの授業改善の視点の共通理解と実践、計画的な校内研修の実施。振り返りの視点の共通化	・「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定割合は、72.8%で全国と比べて約5ポイント低くなっている。
・思考力・判断力・表現力の育成	・自分の考えを書く活動の習慣化と自分の考えをもたせるための支援 ・ペアやグループ、全体での学び合いの場の設定の工夫	・記述式の問題形式の設問の正答率は、3教科ともに全国と同等である。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定割合は、83.1%で全国と比べて約3ポイント高い。
・家庭学習の習慣化	・本校独自の「家庭学習の手引き」を活用した、発達段階に応じた適切な課題や量の調整と計画的な家庭学習の推進	「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の肯定割合は69.8%で全国と比べて同等である。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語の書くことの内容の問題の正答率が他の内容と比べて低い。	・自分の考えを書く活動のさらなる充実	・文章全体の構成や書き表し方の再確認と指導の工夫 ・文章を互いに読み合い評価する活動の充実 ・家庭学習の機会を活用した定期的を書く活動の充実